

インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) リッキョウダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) セキ トモカズ
立教大学	経済学部	關 智一 ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) エフビー	フリガナ) タケウチ チヒロ	4	無	無
FB	竹内 千尋			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

無

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ (発表タイトル)

明日 Board～明日に繋がる掲示板～

※必ず企画シート作成上の注意を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

東日本大震災を経験しながらも、最近の西日本を襲った大豪雨などでは、未だに在宅避難者への支援の脆弱性が問題となるなど、災害大国日本にとっての課題は山積している。今回私達はこうした在宅避難者の問題に着目し、被災後の生活に欠かせない情報の収集における問題を取り上げ、その改善に向けた取り組みについて検討した。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

現在、避難者のタイプには、①避難所に滞在する避難者と、②プライベートな空間がなくストレスが溜まるなどの理由から、自宅で避難することを選ぶ在宅避難者の2種類があるとされる。避難所で生活する避難者(①)は、避難物資や行政・各自治体からの情報が頻繁に届く一方で、在宅避難者(②)は、行政や自治体の支援や情報が届きにくいことが問題視されている。最近も災害が発生する度に、この問題は顕著に見受けられるようになってきている。そして総務省の調査によると、在宅避難者は即時的で身近な生活情報を求めているのにもかかわらず

らず、このような身近な生活情報が十分に得られていないことが明らかにされている。

3. 研究テーマの課題

では、なぜここまで問題視されているのにもかかわらず、解決に向けた対策がなされていないのか。行政、民間施設という災害時の情報伝達を担う2者の視点から見てみる。行政に関しては2014年に初めて災害救助法の改正により避難所への入居の有無にかかわらず在宅避難者を支援するよう言及した。つまり、現時点で行政は独自に問題解決に取り組んでいると考えられる。一方、民間に関しては各被災地の民間施設を調査したところ、災害後の営業再開時には運営するだけで精一杯でそのような情報を発信する余裕がないという状況であることがわかった。ここから民間が発信できないならば、第三者が口コミという形で発信できるのではないかと考え、JRVC様への聞き取り調査を行ったところ、災害時における情報交換は口コミが基本であるという事実が明らかになった。以上より、災害時において民間が発信できずにいる生活情報を、被災地にいる在宅避難者の方へ伝達するためには第三者による口コミを活かすことが有効であると考えた。

現在口コミを生かした災害時の情報伝達アプリとして「ツナガルプラス」と「被災地救援サイト」というものがある。これらは災害時に被災者自身が書き込むことで災害時の情報を被災者同士で共有するアプリであるが、これらのアプリはコミュニティ内だけでの情報共有になるため拡散力が弱く、避難所や災害現場の情報をメインにしているため身近な生活情報は提供されていないという課題が見られ、即時性にもかけている。また口コミという形態を活かしているSNS代表のTwitterやInstagram、Facebookは災害時に必ず問題となるデマ対策がなされておらず、現状のままでは在宅避難者が生活する上で欠かせない民間施設の情報などの生活情報を手に入れるには課題がある。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記の災害時の生活情報に必要な要素を全て満たした理想的な生活情報提供アプリとして提案するのが『明日Board』である。

【概要】

在宅避難者同士がアプリを利用し各個人が得た身近な生活情報を発信することによって、アプリの利用者に必要な情報を迅速かつ正確に共有する。

【特徴】

①即時性

→在宅避難者が各民間施設を訪れて得た情報（営業再開時間の告知や営業再開時の運営状況など）を随時書き込めるレビュー機能をつけることで閲覧者（在宅避難者）がリアルタイムの情報を得ることが可能になる。

②信憑性の高さ

→アプリ内で各店舗についてレビュー機能をつける。これにより、信憑性についての評価をデータとして確認できるシステムを作ることによって、デマなどの対策にも繋げることが可能になる。また各民間施設から半径3km圏内にいる在宅避難者のみ口コミを書き込むことができる。

③拡散力

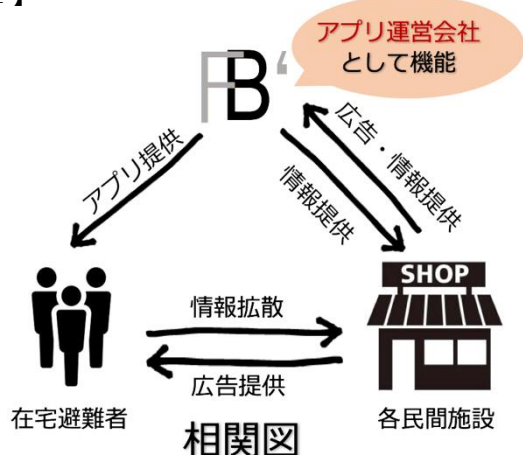
→アプリをダウンロードすることで、誰でも自分の知りたい地域の生活情報を得ることができる。また、一つの地域を特定すると、その地域内での生活情報が一覧のリストとして確認することが可能になる。

④より身近な民間情報の提供

→各地域の店舗情報が掲載されるため、各個人が自宅から一番近い民間施設の情報を得ることが可能になり、自分のほしい民間情報を容易に得ることが可能になる。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

【図1】



関連図

図1のような相関関係で『明日 Board』を運営し、私たちFBはアプリ運営会社として機能する。

FB×在宅避難者

【災害時】

・FB→在宅避難者：アプリを提供する。

✓被災後の生活で得た身近な生活情報を共有するプラットフォームを利用できるためアプリを利用するだけで他者から直接聞いた情報のみならず一括して最新の情報を豊富に得ることができる。

在宅避難者×各民間施設

【災害時】

・在宅避難者→各民間施設：情報拡散

✓災害後の営業再開時には情報提供できない施設の代わりに在宅避難者が情報を拡散してくれるため負担が軽減する。

【平常時】

・各民間施設→在宅避難者：災害物資取り扱い情報・広告の提供

FB×各民間施設

【災害時】

・FB→各民間施設：アプリ検索履歴から得た在宅避難者からの情報を提供する。

✓この情報が今後の災害時における被災者のニーズとして業務改善と向上につながる。

【平常時】

・各民間施設→FB：広告・災害物資取り扱い情報を提供する。

・FB→各民間施設：平常時アプリ内で広告・災害物資取り扱い情報を随時掲載する。

✓各民間施設はアプリ内での広告掲載により**広告効果**が見込めると共に、災害物資取り扱い情報の掲載により災害対策に注視している店舗ということで**災害時の利用率向上の可能性**が見込まれる。

アプリ利用率に関しては「実際にこのアプリを使用してみたいか」という独自調査を行ったところ92%が利用したいと回答しており、「購入後に口コミをしても良いか」という質問には73%がしても良いと回答しているため、有用性はあると考えられる。また被災地含む各民間施設様からこのアプリの運営に際し、提携していただくことに関しては現在2事実3店舗からこのアプリがあれば協賛を検討するとのお声を頂いており実現可能性の高い活動である。

6. 結果や今後の取り組み

現状残されたままの課題として、民間施設が災害時に生活情報を発信できないため、第三者が発信することになる。すると拡散力、即時性、デマ対策、身近な民間情報の不足という4点の課題が生じてくる。そこで私たちが提案するアプリは第三者が口コミで情報を拡散するという解決策でこの4点を満たすことができる。一方で、今回の提案はアプリの運用という手法を取っているため、SNSに馴染みの薄い高齢者などへのアプローチが不足している。また、アプリの普及や広報などといった課題も残っている。今回はアプリ制作を進める想定のもと、アプリの制作そのものには着手していないが、これらの課題を踏まえ、今後アプリの完成とともに、本格的な活用を目指し研究を深めていく。

7. 参考文献

株式会社三菱総合研究所「災害時における情報通信のあり方に関する調査結果」

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin02_02000036.htm

一般社団法人 日本レスキューボランティアセンター

<http://japan-rvc.com/>

富士通九州システムズ ツナガルプラス

<http://www.fujitsu.com/jp/group/kyushu/solutions/industry/localgovernment/tsunagaru-plus/>

「東日本大震災と情報、インターネット、Google」

https://www.google.org/crisisresponse/kiroku311/chapter_16.html

トクする！防災

<https://tokusuru-bosai.jp>

JRVC 加藤様

株式会社日本防災技術センター取締役業務企画部長 磯野正雄様

東京臨海広域防災公園管理センター 澤様

災害支援・防災教育コーディネーター社会福祉士 宮崎賢哉様

株式会社日本防災技術センター総務部 小林様

「NHKぼうさいマップを作ろう」事務局 松永様

みやはら 内牧店

ダイレックス 阿蘇店

アスカショッピングセンター

マルエイ 松橋店
有佐スーパー 小川店
マルショク 松橋駅前店
ゆめまーと 三角店
スーパーフレッシュくまい
(他民間施設 35 店舗)

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経 BP マーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください